

第3章 世界経済の見通しとリスク

- アメリカでは、2010年には景気は持ち直すものの、家計のバランスシート調整が続くことなどから、回復のペースは緩慢なもの（1%程度の成長）となる可能性が高い。
- ヨーロッパでは、自律的な回復の可能性は小さく、アメリカ経済が10年に持ち直すことを前提に、10年後半には、景気が持ち直す。
- アジアでは、中国は、景気刺激策の効果もあり、09年後半には緩やかに回復に向かう。国内市場が小さく、輸出の名目GDP比が高いNIEsやASEANの一部の国では、本格的な回復は10年に入ってから。
- 09年の世界経済は、戦後初めてのマイナス成長となる見込み。10年には、アメリカ経済が持ち直すにつれて、世界経済全体も持ち直すが、アメリカが回復のエンジンとなれないことから、回復のテンポは世界経済全体で1%程度と緩やか（第3-4-1表、第3-4-2表）。
- 中国経済の世界経済に占める割合は7%強に過ぎず、中国の景気回復が、世界経済全体の回復をけん引することまでは期待できないが（第3-4-3図）、アジア地域では、中国の回復が周辺国の回復に寄与する可能性。

第3-4-1表 国際機関による主要国・地域別経済見通し

国際機関名	2007年 (実績)	08年 (実績)	09年見通し		10年 (見通し)
			08年11 (前回)	09年1 (今回)	
IMF (市場レートベース)	3.8	2.1	1.1	▲ 2.5	1.0
IMF (購買力平価ベース)	5.2	3.2	2.2	▲ 1.3	1.9
欧州委員会	5.1	3.1	2.3	▲ 1.4	1.9

<個別国 (3機関平均) > (前年比、%)

国/地域名	2007年 (実績)	08年 (実績)	09年見通し		10年 (見通し)
			08年11 (前回)	09年1 (今回)	
アメリカ	2.0	1.1	▲ 0.7	▲ 3.2	0.0
韓国 (備考3)	5.1	2.4	3.1	▲ 4.0	1.7
中国	13.0	9.0	8.1	6.3	7.9
ASEAN-5 (備考2、3)	6.3	4.9	4.2	0.0	2.3
ヨーロッパ4 (備考2、3)	2.3	0.5	▲ 0.6	▲ 4.3	▲ 0.1
ユーロ圏	2.7	0.8	▲ 0.3	▲ 4.1	▲ 0.3
(参考) 日本	2.4	▲ 0.6	▲ 0.2	▲ 6.0	0.0

(備考) 1. 国際機関は、IMF (09年4月22日)、OECD (09年3月31日)、欧州委員会 (09年5月4日)。
2. 「ASEAN-5」は、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム。
「ヨーロッパ4」は、ドイツ、フランス、イタリア、英国。
3. 個別国の実績、見通しは国際機関 (3機関) の単純平均値による。
ただし、韓国はIMFと欧州委員会の平均。「ASEAN-5」はIMFの見通しを使用。
「ヨーロッパ4」は4か国の値を名目GDP (08年実績) でウェイト付けたもの (各機関のそれぞれの値を単純平均)。

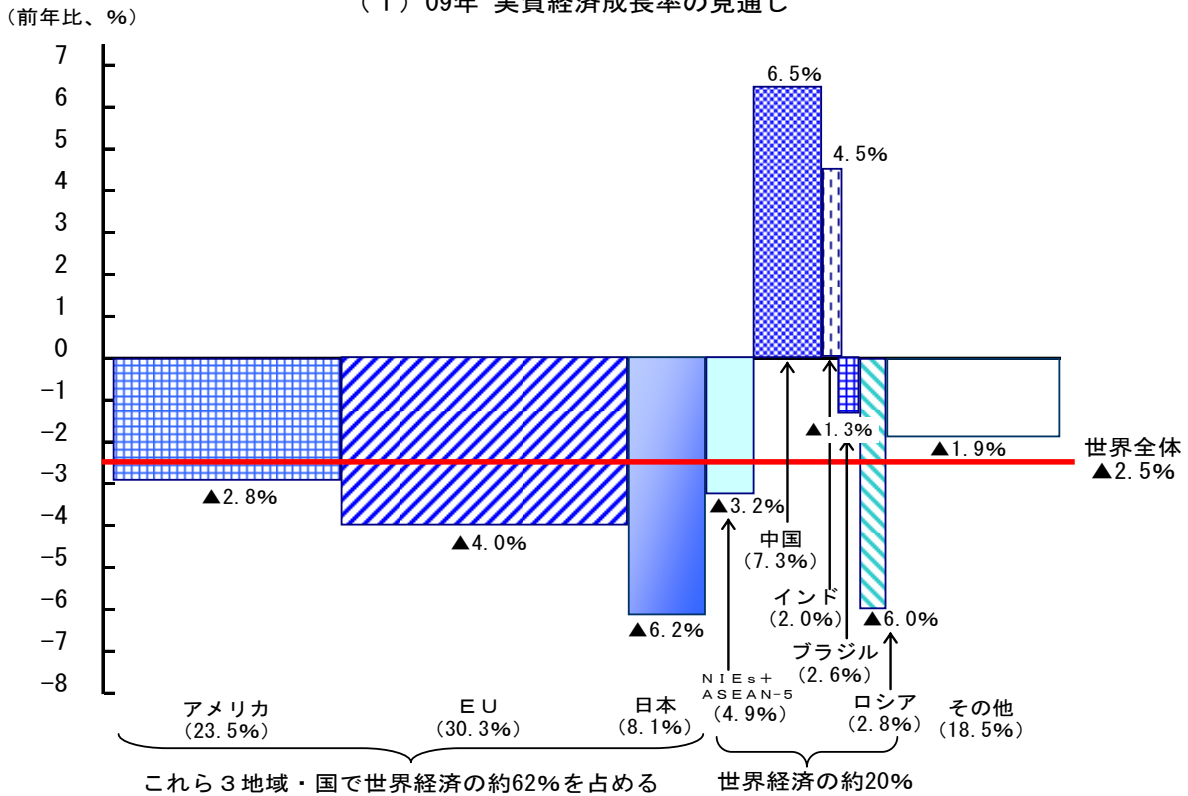
第3-4-2表 民間機関による主要国・地域別経済見通し

国/地域名	1999~2008年 (過去10年 実績)	2007年 (実績)	08年 (実績)	09年見通し		10年 (見通し)
				08年11 (前回)	09年1 (今回)	
世界経済 (33か国・地域)	3.6	4.2	2.3	0.6	▲ 1.7	2.2
北米・中 南米						
アメリカ	2.6	2.0	1.1	▲ 1.0	▲ 2.8	1.8
カナダ	3.0	2.7	0.5	▲ 0.1	▲ 2.2	1.9
メキシコ	2.9	3.3	1.3	0.3	▲ 3.4	2.1
ブラジル	3.3	5.7	5.1	2.5	▲ 1.0	3.1
北東ア ジア	8.5	11.0	7.1	5.8	3.9	6.6
うち中国	9.8	13.0	9.0	7.8	6.7	8.1
ASEAN	5.0	6.3	4.3	3.4	0.1	3.2
インド	7.1	9.2	7.4	6.7	4.9	6.7
オース トラリア	3.3	4.2	2.0	1.3	▲ 0.8	1.6
ヨー ロッパ						
ヨーロッパ4	1.8	2.4	0.5	▲ 0.8	▲ 3.5	0.4
ユーロ 圏	2.1	2.7	0.7	▲ 0.6	▲ 3.3	0.5
ロシア	6.9	8.1	5.6	3.9	▲ 3.6	1.2
(参考) 日本	1.3	2.3	▲ 0.7	▲ 1.0	▲ 6.1	1.5

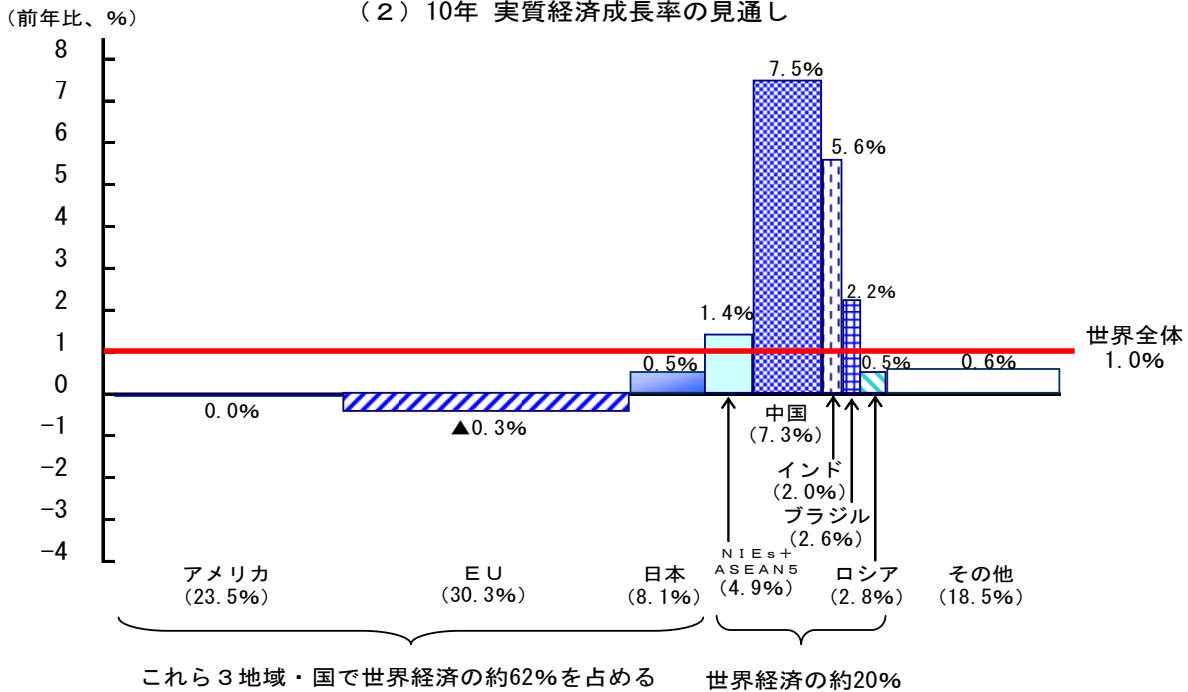
(備考) 1. 日本を除く各国の実績は各国・地域統計、見通しは民間機関見通し (09年2~5月発表) の平均値に民間機関は、ブルーチップ (09年52社、10年50社)、Economist Intelligence Unit、OXFORD ECONOMI JP Morgan、三菱東京UFJ銀行、野村證券、三菱総研、みずほ総研、国際金融情報センター。日本の実績は内閣府国民経済計算部公表値 (09年5月)、見通しは社団法人経済企画協会「ESPフォーキャスト調査 (09年5月)」の暦年予測値。
2. 「世界経済 (33か国・地域)」は、北米・中南米 (4か国) + アジア・大洋州 (10か国及び台湾) + ヨーロッパ (18か国)。「北東アジア」は、中国、韓国、台湾、香港。「ASEAN」は、シンガポール、インドネシア、タイ、マレーシア、フィリピン。「ヨーロッパ4」は、ドイツ、フランス、イタリア、英国。「ユーロ圏」は加盟16か国 (09年1月1日時点)。
3. 「世界経済」の実質経済平均成長率は、33か国・地域の実質経済成長率に名目GDP (08年実績) のウェイトを乗じて算出した値の合計値。「北東アジア」、「ASEAN」、「ヨーロッパ4」も同様に算出。名目GDPのウェイトは、33か国・地域の名目GDP総額に占める各国・地域の割合。
4. 上記の数値は、市場レートベース。

第3-4-3図 IMFによる各国・地域の実質経済成長率見通しと世界経済へのインパクト

(1) 09年 実質経済成長率の見通し



(2) 10年 実質経済成長率の見通し



- (備考) 1. IMF “World Economic Outlook Database, April 2009”より作成。
 2. 図の横軸は、各国・地域の世界経済に占める名目GDPシェア（括弧内、08年）を表しており、図の面積が世界経済へのインパクトの大きさと考えることができる。
 3. ブラジル・ロシア・インドの実質経済成長率見通しは、3か国の名目GDPシェア（08年）で加重平均して算出。
 4. 世界全体の見通しには、図中の国のほか、中東、アフリカ、南米、ロシアを除くC I S諸国等合計140か国程度が含まれる。
 5. 上記の数値は、市場レートベース。